













源三位頼政公之墓所



源三位頼政公之墓所





天竺集印所

源三位頼政公の墓 宝篋印塔

源頼政は保元・平治の乱で武勲を
挙げ、平清盛の奏請により、源氏
として初めて従三位に叙せられました。
歌人としても名高く、勅撰集に優れた
和歌を多く残しています。

治承四年(一一八〇)五月二十六日
平家追討の兵を挙げた頼政は宇治川
で平知盛軍の追撃を受け、平等院
境内にて自刃しました(齢七十六歳)。

辞世

埋もれ木の花咲くこともなかりしに
身のなる果てぞ悲しかりける



源三位頼政公の墓 宝篋印塔

源頼政は保元・平治の乱で武勲を
挙げ、平清盛の奏請により、源氏
として初めて従三位に叙せられました。
歌人としても名高く、勅撰集に優れた
和歌を多く残しています。

治承四年（一一八〇）五月二十六日
平家追討の兵を挙げた頼政は、宇治川
で平知盛軍の追撃を受け、平等院
境内にて自刃しました（齢七十六歳）。

辞世

埋もれ木の花咲くこともなかりしに
身のなる果てぞ悲しかりける

災難よけ不動尊

災難よけ不動尊

本尊災難除け不動明王

かみりしな
そわたあ
うんたら
たかんま
ん



飲
下
り
の
水

合笑亭
石
の
水







長しや大石の寺
大石の寺の
大石の寺の
大石の寺の
大石の寺の
大石の寺の
大石の寺の
大石の寺の
大石の寺の
大石の寺の



最勝院開祖澄栄師之碑



春日型 石灯笼

一基

鎌倉時代・十三世紀

総高二・五 台座幅九〇・〇

石灯笼は、灯火器を仏教の伝来につれて発展させた我が国独自の灯明器で、春日形は藤原家氏神として繁栄した春日大社参道に寄贈された一連のものをいう。

本作は、随所に平安王朝の美意識の残映をとどめ、姿は優美秀麗、全体のバランスに破綻がない。擬宝珠には四枚の華を配す。灯笼の各部に欠失がなく、当初材が完存する鎌倉時代初期唯一の遺品である。

平成二十二年八月二十五日

センチユリー文化財団寄贈



